

使い方 ①問題 1 2 3 ごとに、完答できたらマルをつけよう。
 ②28回まで終わったら、左はし「集計」らんに、①でつけたマルの数を書こう。

3/5題	③	① ②	②	①
------	---	--------	---	---

集計	28回	27回	26回	25回	24回	23回	22回	21回	20回	19回	18回	17回	16回	15回	14回	13回	12回	11回	10回	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回
10題		2 3			2		1		2				2			1	1					1						1
11題						1 2 3				1			1 2							1 2 3							1 2	
12題	1				1			1				1 2		1						1 2 3				1		1 2		
10題				1 2							1 2 3						1 2 3								1 2			
6題			1 2							2							2							2 3				
6題		1							1 3							2							1 2					
12題	2			1 2				2	2			1 2 3			1 2								1 2					

文意の確定
 接続の把握
 情報の選択
 関係の整理
 具体と抽象
 論理推論
 図との対応

読み方レスキュー
 グレード1
 7つのカチエックシート

文意の確定 がニガテな君は↓「だれが(何が)」「どうする?」「どうするか?」と問いかけよう。

▼まずは文の土台である「だれが(何が)」「どうする(どうした)」「を見つける習慣をつける。

【例】雨が降る道路をゆっくりと進むおばあさんが、前を歩いていた子どもに追いついた。

Q 「だれが?」 「どうした?」

A おばあさんが 追いついた

これが文のキホンのキーすべての文はここからはじまる。

接続の把握 がニガテな君は↓どんなつながりがあるかを知ろう。

▼よく目にする「つなげ方」に慣れ親しんでおくことで、自然と文のつながりが見えてくる。

【例】たとえば 「しかし」 「つまり」 「だから」 「ただし」

【ex】 反対【⇔】 言いかけ【=】 結果【⇐】 付け足し【+】

つなげる語
記号で示すと
わかりやすい。

情報の選択 がニガテな君は↓何についての情報を区別しよう。

▼一言で情報といってもいろいろな種類があるから、どんな情報なのかを区別する。

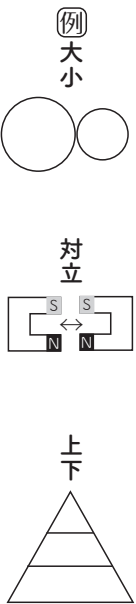
【例】もしもし、週末やっぱ雨みたいだから映画にしよう。そ…うん、じゃあ二時に駅前で待ち合わせね

いつ 天気 何する 時間 場所

必要な情報を見ぬぐ力で、情報社会を生きぬこう。

関係の整理 がニガテな君は↓関係を「見える」化しよう。

▼関係性を見つけたら、頭の中にイメージしたり紙に書きだしたりして整理する。



家族、先輩、友達、恋人…身近な人間関係も図で表せるかも?

具体と抽象 がニガテな君は↓「全体」と「部分」をとらえよう。

▼より広く全体を表す言葉が「抽象」で、その中に含まれる部分が「具体」だと理解する。

【例】スポーツ ↓ 球技 ↓ 野球・サッカー・ラグビー etc

抽象(全体) ↓ 具体(部分)

抽象を細かく分ければ具体になり、
具体の共通点を集めれば抽象が導ける。

論理推論 がニガテな君は↓根拠をもって答えよう。

▼推論によって導かれる答えには、かならず根拠があることを覚えておく。

【例】答え 犯人はこの中にいる!
だから
なぜ? 根拠 被害者に会うことができたのはここにいる三人だけ
なぜ?と問いかけ、「○○だから」と答えよう。

図への対応 がニガテな君は↓言葉の思いこみを捨てよう。

▼まちがった思いこみや、あやふやな知識で言葉の意味をとらえていないか、いま一度確認する。

【例】接する ↓ 交わる ↓
どちらも「触れる」と表現するけどもどっちもが、それでは違いがわからな。